

国際コンファレンス アジア市場の統合と金融革新



セッション2：アジア金融市場における適切な資金供給のあり方について

アジア金融セクターの競争政策と金融仲介におけるその影響

横井眞美子

経済協力開発機構 (OECD) プリンシパル・アナリスト

概要

アジアの金融セクターは段階的に様々な規制緩和と競争促進策を取っている。域内の資本市場振興策と共に、法改正や規制緩和により銀行分野の開放は漸進しており、その方向性の継続は揺るぎないものである。ここではアジアの金融セクターの競争政策の方向性と共に、これがどのように投資家層を広げ、金融商品の選択肢を拡大することが出来るかを考える。

伝統的に金融セクターを競争政策から除外する国もあったが、現在は段階的な規制緩和と市場開放で金融セクターにおいても競争から得られる利益を享受しようとする傾向にある。しかし、これらの措置にも関わらず、アジアの金融資本市場が十分な深度と活発さへ成長しているとは言い難い。

保険と私的年金ファンドはこんな市場の深度と域内統合を高める可能性がある分野である。ほとんどのアジア諸国における保険と私的年金ファンドの資産に対する GDP の比率は低く、これから成長する可能性が高い。市場参入と投資の機会を拡大し、市場参入するための明確な規制・ルールを敷行することは、投資を活発化するだけでなく、銀行預金に集中する世帯資産に対し異なる投資の選択肢を提供することができる。更に、保険・私的年金商品は高齢化する社会の財政的な負担を長期的に分散することもできる。